

【水産林務部所管分】

平成29年第1回北海道議会定例会予算特別委員会第3分科会〔水産林務部審査〕開催状況

開催年月日 平成29年3月15日（水）

質問者 公明党 吉井 透 委員

答弁者 水産林務部長、林務局長、  
水産食品担当課長、林業振興担当課長

質 問 要 旨	答 弁 要 旨
<p><b>一 道産水産物の輸出について</b> 知事は、道の重点施策である「北海道食の輸出戦略」において、平成30年に道産食品輸出額1,000億円とすることを目標としており、中でも水産物・水産加工品の目標額は、750億円となっております。 平成27年までは輸出実績は順調に伸びてきたものと承知しておりますが、平成28年は、苦戦しているものと聞いております。 このような状況を踏まえ、食品輸出において、最も重要な役割を担っている水産物・水産加工品の輸出状況と輸出目標達成に向けた取組について、伺ってまいります。</p> <p><b>(一) 輸出実績について</b> 水産物・水産加工品の輸出実績と平成28年の減少要因について、お伺いをします。</p> <p><b>(二) 主要な輸出品目と輸出国について</b> 平成28年の輸出実績の減少は、ホタテガイの減少が主な要因ということですが、水産物・水産加工品の輸出について、ホタテガイが主要な輸出品目と聞いております。どのような構成となっているのか、主な輸出品目と輸出国について、伺います。</p> <p><b>(三) 多様な輸出ルートや品目の拡大について</b> 輸出品目については、ホタテガイが約6割、輸出相手国では、中国が約5割を占める状況であるとのことでもあります。このように特定の品目、特定の国に頼る状況では、災害や経済情勢の変化などにより輸出実績が大きく減少することも予想されます。 知事が掲げる1,000億円の目標達成のため、安定的な輸出とさらなる増大を図るためには、多様な輸出ルートや品目の拡大が必要と考えます。道として、どのように取り組んでいくのか、お伺いをします。</p>	<p><b>○ 遠藤水産食品担当課長</b> 水産物の輸出実績と減少の要因についてであります。財務省の貿易統計によりますと、道内港からの水産物及び水産加工品の輸出金額は、平成27年の689億円に対して、平成28年は586億円で、前年の約85%となったところであります。主要な輸出品目であるホタテガイが、オホーツク海の低気圧被害に加え、噴火湾における斃死や台風に伴う養殖施設の損壊等の影響により生産量が大きく減少したことが主な要因となっております。</p> <p><b>○ 遠藤水産食品担当課長</b> 水産物の輸出内訳についてであります。平成28年の水産物及び水産加工品の輸出額のうち、品目別では、ホタテガイが約6割の387億円と最も多く、次いで、ナマコが102億円、サケが59億円となっております。これら3魚種で、全体の9割以上を占めているところです。 また、国及び地域別では、中国が、ホタテガイを中心に約5割の294億円と最も多く、次に、香港がナマコを中心に128億円、続いて、アメリカがホタテガイを中心に43億円、これら3カ国で、全体の約8割を占めているところであります。</p> <p><b>○ 遠藤水産食品担当課長</b> 輸出の拡大に向けた取組についてであります。道といたしましては、道産水産物の輸出の安定を図るためには、全体の約6割を占めるホタテガイについて、早期の生産回復が、何より重要と考えているところであります。 さらに、食の輸出拡大戦略の着実な達成に向け、輸出先国の多角化や品目の拡大などを図るため、近年、生産が増大しているイワシをはじめ、ブリやサバ、秋サケの加工品を対象に、経済成長が著しく、今後、需要の拡大が見込まれるシンガポールやタイなど、東南アジアをターゲットに、本年度、市場調査や試験販売などの委託事業を行い、輸出増大に向けた取組を進めております。</p>

質 問 要 旨	答 弁 要 旨
<p><b>(四) 委託事業の調査内容と結果について</b>  今年度、輸出品目と輸出先の拡大を目指して、市場調査を実施したということですが、その調査の具体的な内容と結果についてお伺いをします。</p> <p><b>(五) 今後の取組について</b>  調査の内容とその結果についてお伺いをしました。PRの強化や北海道産を差別化することなどが必要ということですが、この結果を受けて、道として、今後どのように取り組むのか、部長の所見をお伺いします。</p> <p>部長から答弁をいただきましたが、和食ブームをとらえた輸出拡大や販売促進などを図っていくということですが、現地の一般の消費者にも浸透していくようなことを知恵を絞りながら、一層の取組をお願いしたいと思います。</p>	<p><b>○ 遠藤水産食品担当課長</b>  委託事業の内容などについてではありますが、道では、輸出の拡大が見込まれるシンガポールをはじめ、タイやマレーシア、香港において、水産物の流通や販売の状況に加え、秋サケの刺身用フィレーやフレーク、生鮮イワシなどについて、量販店における試食販売や、飲食店でのメニュー展開を通じて、消費者の嗜好やニーズなどについて調査を行ったところです。</p> <p>これら一連の調査の結果、シンガポールや香港については、北海道のブランドイメージは強く、水産物についても高い評価を得たことから、需要の拡大が期待できる一方、タイやマレーシアについては、富裕層や現地の日系人を対象に、一定の需要が見込まれるものの、一般消費者へ浸透するまでには至っておらず、今後、PRの強化に加え、他国産や養殖水産物との差別化を図る取組などが必要と考えているところであります。</p> <p><b>○ 小野寺水産林務部長</b>  道産水産物の輸出に係る今後の取組についてでございますが、食の輸出拡大戦略において、水産物が果たす役割は非常に大きいことから、先ほど担当課長からお答えしましたが、主要な輸出品目であるホタテガイの生産回復と安定はもとより、輸出先国の多角化や品目の拡大などの取組が必要と考えております。</p> <p>このため、道では、本年度の東南アジアにおける調査結果をもとに、コールドチェーンや販売方法などの流通実態、消費者の嗜好など、国ごとの特性や、外食・中食向けなどの用途に応じて、販売する商品を明確にするとともに、世界的な和食ブームをとらえ、天然、高鮮度などをアピールし、他国産との差別化を図りながら、秋サケやイワシなどの販売促進に取り組んでまいりたいと考えてございます。</p> <p>また、関係団体と連携しながら、道産水産物のPRや商談会を開催するほか、航空貨物による、カキやウニをはじめとする生鮮魚介類の輸出を進めるなど、道産水産物の輸出拡大に、一層、取り組んでまいりたいと考えてございます。</p>

質 問 要 旨	答 弁 要 旨
<p><b>二 林業の担い手育成について</b></p> <p>次に、林業の担い手育成についてであります。</p> <p>近年、人工林が利用期を迎え、林業活動が活発化するなか、森林施業や木材利用など専門知識を持つ人材の育成が重要と考えます。</p> <p>我が党は、この間、林業活性化こそ本道における地方創生の重要な柱と考え、プロジェクトチームを設置して、地域と一緒に様々な活動に取り組んでまいりました。</p> <p>特に、空知管内をはじめとする道内数カ所で、学識経験者をはじめ、自治体や木材産業関係者など、幅広い分野で活躍されている方々が参画する林業活性化フォーラムを開催してまいりましたが、これらの中で、「是非、道立林業大学校を本道に設置すべきである」などとした意見が数多く出され、また、空知管内の自治体などから、道立林業大学校設立の要望が寄せられているところであります。</p> <p>このため、我が党は、去る1月27日の知事への重点要望の際に、特に、最重点要望項目として、道立林業大学校の設立を要望してきたところであります。</p> <p>本定例会における、我が党の代表質問に対し、知事は、林業大学校など人材育成機関の設立に向けて、検討を進めるなどと積極的な答弁をされたところでありますが、検討に当たっては、北海道の林業の特色を十分踏まえる必要があると考えております。</p> <p>そこで、林業の担い手育成の現状や他県の取組について以下伺ってまいります。</p> <p><b>(一) 林業労働者数の推移について</b></p> <p>まず、近年の道内の林業労働者数と新規参入者の推移がどのようになっているのか、お伺いをします。</p> <p><b>(二) 林業の就業環境について</b></p> <p>いずれも増加傾向というご答弁をいただきました。</p> <p>次に、林業の新たな担い手を確保するためには、まずは、就労環境の改善や労働災害の防止が重要と考えます。</p> <p>道では、どのように取り組んでいるのか、伺います。</p>	<p><b>○ 大澤林業振興担当課長</b></p> <p>林業労働者数の推移などについてであります。道が2年ごとに実施しています「林業労働実態調査」では、道内の林業労働者数は、平成17年度の3,785人を底に増加傾向で推移し、平成27年度は4,272人となっております。</p> <p>また、新規参入者数につきましては、近年、平成19年度の274人をピークに減少傾向が続いていましたが、平成27年度は、平成25年度の145人から40人増加し、185人となっております。</p> <p><b>○ 大澤林業振興担当課長</b></p> <p>就労環境の改善などについてであります。林業は、屋外での危険を伴う作業が多く、労働災害の発生割合が、全産業平均の約8倍と高い水準にあり、担い手を確保するためにも、労働災害の未然防止や就労環境の整備を進めることが重要であります。</p> <p>このため、道では、北海道森林整備担い手対策基金を活用し、デザイン性や機能性に優れた安全服の購入や、労働災害発生時の未然防止に向けたリスクアセスメントの導入などに取り組む林業事業体に支援しているところです。</p> <p>また、就労環境の改善を図るため、今年度から全道5地域に設置されている地域協議会が行う下草刈りなどの作業負担を軽減する機械の導入や、異業種との連携によります通年雇用化の取組などに支援しているところでございます。</p>

質 問 要 旨	答 弁 要 旨
<p><b>(三) 林業事業体の育成について</b>            森林づくりを計画的に進めて行くためには、労働者を雇用する森林組合や林業関係の民間企業、いわゆる林業事業体の育成が重要と考えます。            道では、どのように取り組んでいるのか、続いて伺います。</p> <p><b>(四) 林業労働者の育成について</b>            続いて、林業労働者の育成の関係でお聞きします。伐採や植林など適切な森林施業を行うため、道では、これまで、どのように林業労働者の育成に取り組んできたのか、お伺いをします。</p> <p><b>(五) 農業高校森林科学科の卒業生の進路について</b>            道内には、岩見沢、旭川、帯広の3つの農業高校に森林科学科が設置されていると承知をしておりますが、卒業生の進路がどのようになっているのか伺います。</p> <p><b>(六) 新規就業者の確保について</b>            かなり、林業関係にも就業されているということですが、林業の現場では担い手の不足が進んでおり、新規就業者の確保が喫緊の課題と考えます。            道では、これまでどのように取り組み、今後、どのように取り組んでいくのか、お伺いをします。</p> <p><b>(七) 林業の担い手育成に対する意見について</b>            道は、「北海道森林づくり基本計画」の案の中で、「他府県の取組を参考に、林業生産活動を支える人材育成のあり方について検討を進める」などとされておりますが、計画の策定に当たって、どのような意見があり、計画案に反映されたのか、お伺いをします。</p>	<p><b>○ 大澤林業振興担当課長</b>            林業事業体の育成についてであります。道では、適切な森林の整備や保全を図り、労働安全衛生に取り組む事業体を育成するため、平成24年度に創設した林業事業体登録制度を活用し、労働災害の防止対策や森林法で規定する伐採届出制度などの研修会、経営の改善につながるセミナーなどを実施しているところであります。            また、林業事業体に対し、高性能林業機械などの導入に支援するとともに、融資制度の活用を促すなど森林づくりを支える林業事業体の育成に取り組んでいるところでございます。</p> <p><b>○ 大澤林業振興担当課長</b>            林業労働者の育成についてであります。道では、これまで、国の「緑の雇用現場技能者育成推進事業」などを活用し、関係団体が実施する本格就業前のトライアル雇用や、就業に必要な基礎的な知識・技術と経験年数に応じ効率的な作業を行うための管理手法を習得する研修の実施などに支援しているところであります。            また、「北海道森林整備担い手対策基金」を活用し、高性能林業機械の操作やメンテナンス、さらには、森林内の路網整備など短期の研修を国の事業と併せて実施するなど、林業労働者の育成に取り組んでいるところでございます。</p> <p><b>○ 大澤林業振興担当課長</b>            卒業生の進路についてであります。道が毎年、岩見沢、旭川、帯広の各道立農業高校を対象に実施している調査では、平成25年度から平成27年度までの3年間に森林科学科を卒業した合計346人のうち、就業者は約7割の241人で、大学などへの進学者が103人となっております。            また、就業者のうち、林業事業体には61人、国や道の林業職には40人の合わせて101人が林業関係に就業しております。</p> <p><b>○ 佐藤林務局長</b>            新規就業者の確保についてであります。道では、道内5地域で設置している地域協議会が行う就業を希望する学生を対象としたインターンシップや、林業事業体と求職者のマッチングを図る就業相談会の開催などに支援するとともに、関係団体と連携し、農業高校の森林科学科の生徒を対象に、高性能林業機械による伐採の体験学習や木材加工工場の見学会を実施するなど、若年者をはじめとした、新規就業者の確保に取り組んでいるところであります。            また、こうした取組に加え、新年度から、若年者をはじめ、道内外から森林づくりを担う人材を確保するため、林業への就業体験や、インターネットを活用した効果的な情報発信などに取り組む、新規就業者の確保を一層進めてまいりたいと考えております。</p> <p><b>○ 大澤林業振興担当課長</b>            林業の担い手育成に対する意見についてであります。道では、「北海道森林づくり基本計画」の見直しに当たり、北海道森林審議会や市町村などから、「国内外の先進的な取組を参考に、北海道にふさわしい森林づくりを担う人材の育成のあり方について検討すべき」、「即戦力となる担い手を育成してほしい」、「林業大学校など人材を育成する機関の設立を検討すべき」といったご意見をいただいていることを踏まえ、基本計画に人材育成のあり方を検討する旨を位置づけたところでございます。</p>

質 問 要 旨	答 弁 要 旨
<p>(八) 他府県の林業大学校の設立状況について  答弁いただきましたが、主に3点の意見を踏まえて、今、お聞きした3点を踏まえて、人材育成のあり方を検討すると位置づけられているということだとお聞きをしました。  他府県では、林業大学校が設置されていると承知をしておりますが、他府県の設立状況がどのようになっているのか伺います。  また、どのような目的で設立されているのか、併せて伺います。</p> <p>(九) 林業大学校の卒業生の進路について  林業大学校は、即戦力となる新たな人材を輩出しているということですが、それでは、卒業生の進路がどのようになっているのか伺います。</p> <p>(十) 今後の取組について  ご承知のとおり、北海道は林業王国であります。この林業王国北海道にふさわしい、他府県に例を見ない道立林業大学校を設立して頂きたいと考えておりますが、道として、今後、道立林業大学校の設立に向けて、どのように取り組んでいかれるのか、部長の所見をお伺いをします。</p> <p>以上、林業の担い手育成について、様々な観点から伺ってまいりました。  中でも、林業大学校の設立に関しましては、知事の考えを直接お聞きしたいと思いますので、委員長におかれましては、お取り計らいのほどよろしくお願いたします。  以上で私の質問を終わります。ありがとうございました。</p>	<p>○ 大澤林業振興担当課長  他府県の林業大学校の設立状況についてであります。林業大学校は、長野県や京都府など9府県で設立されており、平成29年度には兵庫県、和歌山県で新たに設立が予定されております。  こうした他府県の林業大学校では、伐採や植林などの専門的知識や技術を備えた即戦力となる人材の育成、林業事業体の経営を担うマネジメントなどを習得した人材の育成などを目的として設立されており、定員は、1学年10名から40名で、修業年限は、1年または2年となっているところでございます。</p> <p>○ 大澤林業振興担当課長  林業大学校の卒業生の進路についてであります。道がこれまでに把握しているところでは、長野県では、平成13年から平成27年度までの卒業生266人のうち、約4割に当たる111名が素材生産や木材流通などの民間企業、また、約2割に当たる59人が森林組合に就職しており、全体では、卒業生の約6割が林業関係の企業などに就職しております。  また、京都府では、林業関係者などが参画する協議会を設立し、学生の生活から就職まで一貫的なサポートを行っており、平成26年3月の卒業生17人のうち、約9割に当たる15人が、林業関係の企業などに就職しております。</p> <p>○ 小野寺水産林務部長  林業の担い手育成に関し、今後の取組についてでございますが、本道では、人工林が利用期を迎え、伐採や植林など森林づくりを担う人材の育成・確保が喫緊の課題となっておりますことから、道では、関係団体と連携し、引き続き、経験年数に応じた研修の実施や労働災害の未然防止、通年雇用化の促進など就労環境の改善を図るとともに、新年度から、新規就業者の確保に向けて、林業の就業体験プログラムの実施などに取り組む考えであります。  こうした中、他府県で設立されている林業大学校は、即戦力となる人材の育成など、重要な役割を担うものと考えておまして、道といたしましては、今後、関係団体や試験研究機関と連携し、地域や林業事業体のニーズを十分把握するとともに、他府県の特徴を活かした取組の調査分析を行い、広大なカラマツ人工林や、豊かな生態系を育む広葉樹林など地域毎に多様で特色のある森林が分布し、全国一の資源量を誇る本道にふさわしい林業大学校など人材育成機関の設立に向けまして、有識者などの幅広いご意見を伺いながら、早急に検討を進める考えでございます。</p>